

《茨城県守谷市》

1 守谷市の概要

守谷市（もりやし）は、茨城県の南西端に位置し、人口約6万5千人で東京都心から40キロメートル圏内にある。東は取手市、西は常総市、北はつくばみらい市に隣接し、南は利根川を挟んで千葉県野田市と柏市に相對した市である。

鉄道は、秋葉原駅とつくば駅を結ぶ首都圏新都市鉄道・つくばエクスプレス及び関東鉄道常総線が通っている。道路は、東京・茨城方面への常磐自動車道、栃木・福島方面への国道294号が通っており、特に常磐自動車道の守谷サービスエリア、水戸・いわき方面最初のサービスエリアとして、多くの方々に利用されている。

アサヒビールの東洋一の飲料プラントを有し、また、明治製菓の機能性食品R1が当市で製造され全国出荷されているとのこと。

現在の議員定数は20人であり、委員会は常任委員会が3つ設置されており、特別委員会は決算予算特別委員会の他にスポーツ推進特別委員会、広報広聴特別委員会、地方創生特別委員会が設置されている。また、この他に、議会改革推進会議、全員協議会が設けられている。

◎調査概要

○ 議会運営委員会の委員定数

守谷市議会委員会条例に基づき、定数は9人、議長の出席は必須

○ 選出方法について

委員選出については、副議長、3常任委員会委員長、各会派（会派は2人以上で結成）の中から1名（代表者ではなくてもよい）それでも委員が不足の場合、概ね会派の人数の多い会派から年長者を選出するといった構成。

正副議長の選挙は2年に1回、その際、常任委員会・特別委員会の委員は議長が各議員の要望等を聞きながら、委員会等に会派の議員が固まらないよう概ね平らな形となるよう配慮しながら決定していくとのこと。

○ タブレット型端末機 more NOTE の活用状況について

① タブレット導入経緯

守谷市議会では、「市民とともに進化し続ける守谷市議会」をキャッチフレーズに議会改革を進めている。

その改革の一環として、広報特別委員会を平成24年に立ち上げ、ICTの利活用について検討してきた結果、平成26年8月、議会のペーパーレス化と議員・事務局間の情報共有を目的に、タブレットとmoreNOTEの導入を決めた。

タブレットとmoreNOTEの導入という先進的な取り組みをスムーズに実現できたのは、地方議会のあり方を考えた時に、市民に対する議会の見える化や最終議決機関として行政に対する提言、監視機能を強化しなければいけないという統一見解があったからとのこと。

議会改革を進める度に事務局の負担が増えていくことを考え、作業負荷の軽減策としてmoreNOTEの導入は必要不可欠であり、ほとんどの議員がスマートフォンまた

はタブレットを個人で利用していたこともあり、ペーパーレス化の取り組みとしてmoreNOTEを導入することに抵抗はなかったとのこと。

予算取りには、数々の段階を経て行政当局の承認が必要であったため、議会資料をペーパーレス化した場合、紙そのものに限らず、印刷費や製本の手間やそれに付帯するコストの削減が考えられ、予算取りの承認を得るに至ったとのこと。

先に議会でペーパーレス化を行っていた自治体の視察や、他社サービスとの比較を委員会内で検討し。一般の企業とは違う議会独特の事情や使い方があるので、それにマッチさせることが重要と考えたとのこと。

富士ソフトのmoreNOTEに選定した理由については、導入前のモデルの使い勝手が悪かった（特にメモの記載等）や他社サービスと比べて安価だったことが最終的な決め手になったとのこと。

moreNOTEの活用については議会資料の閲覧と議員・事務局間の情報共有のツールとして使用やこれまでは、その都度事務局が事前に紙資料を製本して、直接議員の自宅まで届けていたがmoreNOTEを導入したことで、その工程を完全に削減し、現在では全資料をmoreNOTEに格納することで、即座に情報共有ができるようになりましたとのこと。また市民に対し、様々な情報をホームページで公開しているが、議員が市民に直接対話をする際、それ以上の情報を把握しておく必要があるため、議員・事務局間ではmoreNOTEであらゆる情報を共有している。

- 導入効果については、事務局の負担（これまで全て人手をかけていた紙資料の印刷、製本、配布）を、moreNOTEにアップロードするだけで完了できるようになったこと。また、資料差し替えも、同様にアップロードし直すだけとなったことなど負担軽減が図られたとのこと。さらには、閲覧する議員にとっては、外出や移動も多く、隙間時間を有効活用して事前に議会資料に目を通すことができるようになったため、より有意義な議論を交わせるようになった。



《埼玉県和光市》

1 和光市の概要

和光市（わこうし）は、埼玉県南部に位置し、東京都と接する市。市域面積は11km²、東西に2km、南北に5kmとコンパクトな市、東京23区に隣接することから戦後急速にベッドタウンとして人口が増え、現在の人口は8万1千人を超えたところであり、県の推計では15年後まで増え続ける可能性があるとのこと。その要因としては、首都圏に隣接しており、和光市から池袋まで電車で12分、銀座までは40分、東京都を越えて横浜まで1時間といった都心へのアクセスの良さがあり、サラリーマンにとって魅力ある街となっている。また縦横に国道が敷設されていることから交通の要所、物流の拠点でもある。また和光市には理化学研究所がありそこで発見されたニホニウム（原子番号113の元素。元素記号はNh。平成28年11月に正式名称が決定）知的財産として登録されており、「理研新元素発見記念事業」の一環として、和光市駅から理化学研究所までの道路約1.1kmを「ニホニウム通り」と命名され、3日前に記念式典が執り行われていた。他に司法研修所や税務大学も誘致している。また、産業面では、本田技研工業の本社機能の一部も和光市に立地しており、2,000人の従業員が通勤しているとのこと。

◎調査概要

○ 議会運営委員会の委員定数

議会運営委員定数8人（現在委員は5人）、ただし、議会の議決により、臨時にその定数を増減することができることとなっている。

会派は2人以上の所属議員を有する交渉団体としており、会派2人より議運の委員1人を選出。

議運には正副議長、無会派の議員も委員外議員として出席する。（議決権は無）

○ 選出方法について

委員選出方法については、改選時又は委員の任期満了（2年）の際、全員協議会を開催し、各委員の選出について協議。会派は2名以上からとなっており、各会派より1名選出し、委員を決定していくといった方法。全員協議会で内定した委員を本会議で議長が指名推薦し決定する。

○ 委員外議員の活用のメリット、デメリット

1人会派については、委員外議員といった形で会議に席（委員と同じテーブルに着く）を設け議会運営委員会に出席する。委員長から意見を求められた場合に発言することができる。メリットについては1人会派でも議運に出席することができ、すべての議員において情報共有が図られ、場合によっては一人会派を含めた全会派の意見をきくことができる。デメリットについては、1人会派が増えた場合、正規の委員を人数で越えるといった場合もある。（平成27年には正規の委員4人に対し1人会派7人）

○ 議会改革について（日曜議会・議員研修会の開催）

【議員研修会の開催】

議員自らが発議・提案・企画し、開催については、議会運営委員会において決定し実施。毎年必ず1回は開催することと決めている。

直近の開催実績

平成28年度は3回実施

- ・防災関係について市担当者・消防職員を講師に招き防災関係の勉強会を開催
- ・千葉県柏市議会へ議会運営について視察
- ・公会計について市職員を講師に招き勉強会を開催

平成27年度

- ・震災時における議会の役割について岩手県大船渡市副市長を講師に招き勉強会を開催

平成26年度

- ・東京大学名誉教授を招き「地方議会の役割と課題」と題し勉強会を開催

【日曜議会】

平成21年より毎年3月議会の開会日（市長の施政方針演説）の際に開会

日曜議会開催のメリットについては、平日勤務の方々が議会傍聴することができ、議会を身近に感じていただくといった面や中学生・高校生などにも呼びかけて議会傍聴してもらうことができる。（和光市は埼玉県中18歳投票率が一番高い）

課題としては、職員が休日出勤しなければならず、議会側からすれば休日にもかかわらず拘束することとなり、2週間休みなしで仕事をする事となることデメリット。（人件費等経費負担が伴う）

※ 和光市の議会本会議開会時間は9時。理由として市域が狭いため市のどこにいても概ね10分で登庁が可能のため

